

# 蒼雲



## 令和6年度の開校100周年 を迎えるにあたり

校長 山崎 誠

秋も深まりつつありますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。日ごろより三刀屋高校の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。

さて、今回の『蒼雲』で138号となります。50号ほどの第89号で、90周年記念式典のことが紹介されています。ここ10年ほどで50号あまりも発行されたのは、90周年を迎えた平成26年度から翌平成27年度にかけて、「三高90年物語」「三高91年物語」の掲載を兼ねて第83号から第114号まで20号ほどが集中的に発行されたことによります。時は巡り、令和6年度に100周年を迎えるにあたり、去る8月28日(土)、三刀屋高等学校開校100周年記念事業推進委員会の発足を兼ねた第1回会合が開催されました。

本校は、大正13(1924)年4月17日に開校。昭和23(1948)年に島根県立三刀屋高等学校として新たな歩みを始め、平成16(2002)年に普通科から総合学科に改編され現在に至っており、卒業生も17,000名余を数えています。

三刀屋高校は、当時の県会議員の藤原薫医師、貴族院議員の田部長右衛門(長秋)氏、郡会議員・三刀屋村の12代松尾清三郎氏の献身的努力と住民の熱い要望により設立さ

れた県下5番目の旧制中学校が前身となっています。当時の思いや受け継がれてきた地域からの思いの深さを感じながら、生徒達は学校生活をおくっています。

三刀屋高校は、総合学科の特色を生かした教育活動、特にキャリア教育や地域と連携した探究学習に特色があります。2013年にはキャリア教育優良学校文部科学大臣賞を受賞。今年度も、夏に他県からの視察や大学の調査訪問等があり本校の取り組みを紹介しました。秋にも訪問が予定されているところです。生徒も学校も地域の方々に支え育ててもらっている高校だからこそ注目されていると思っています。第89号の編集後記に、半年間の取材で感じたこととして、夢を語り合うことの大切さが書かれていました。夢を持つ人づくり、その人たちをつないでいくことが、学校や地域の活性化にもつながるとされています。コロナ下にあつて、未来を描き、夢を語ることがより大事になってきていると感じています。

探究学習等を通して、あたりまえのことがあたりまえでないことに気づいたり、あつかないかでなく、新たな価値を見出したり創出したりする意識や意欲を持ったたりするようになることが、島根や雲南に、そし

て働くことに誇りをもつようになっていくと考えます。そのことは、地域貢献にもつながっていきます。JRC部を中心に自主的なボランティア活動に参加する生徒が増えつつあるのはそのあらわれの一つです。地域の方々にその活動や活躍を応援してもらったり、認めもらったりする中で、自信をつけ、コミュニケーション力だけでなく、主体性が養われていく生徒も多くなります。部活動での活躍も、地域への恩返しと思っ

てがんばっている部分が大いにあると思っています。

令和4年度は、学校の合い言葉を少し変え、「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志」自立した大人となるために」としました。この合言葉に込めた意味を宮沢賢治風にと、

挑戦していく少しの勇気をもち、人への思いやりを忘れず、大きな志をもって決してくじけず努力を怠らない・・・そんな三高生に私はなりたい・・・自立した大人となるために・・・となるでしょうか。

三高生が、自立した大人として成長していく中で、教育資源、教育環境として、地域は重要不可欠なものとなっています。開校100周年に関わる事業をすすめていく中で、これまで以上に、三高と地域がより緊密になり、三高があることが地域の誇りにつながっていくべきと思っています。

これまで地域のみなさまには体育後援会等を通じて、多大なるご支援をいただいておりますが、開校100周年事業の推進に向けて、物心両面において、今後さらなるご協力ご支援等いただければ幸いです。

# 三高祭を終えて



生徒会長  
伊藤 滉基

今年の三高祭のテーマは「Reborn ~三高革命~」でした。この三高祭を通して生徒一人一人が様々なことに挑戦をし、自分達の中で革命を起こして欲しいという思いを込めて生徒会執行部で話し合っただけで済ませた。三高祭を終えた今振り返ってみれば、その大きさや形に違いはあれど、確実に生徒全員に変化が起ったと僕は確信しています。そしてそれらの変化は必ず全員にとってプラスに働いていくことと思います。また、厳しいコロナ禍によって、多くのことを制限され思うようにできないこともあり、一時は三高祭の開催さえ危ぶまれましたが多くの方々の協力があり、休校を挟みながらも開催できたことを本当に嬉しく思います。たった3日間の出来事でしたが、この行事を通して僕たち高校生時間は本当に密なのだと思えました。またこの期間で僕たちを日々支えて下さっている方々の存在を改めて感じることが出来ました。本当にありがとうございました。

(全員) こんにちは！

(鈴木) 赤組色長の鈴木利玖です。

(常松) 青組色長の常松誠義です。

(爲石) 紫組色長の爲石康太郎です。

(伊藤) 黄組色長の伊藤滉基です。

(常松) お疲れ様でした！準備から当日まで本当に楽しかったね。皆は何が印象に残ってる？

(爲石) やっぱり体育祭があった二日目かな。最後までどの組が勝つか分からなかったよ。

(伊藤) 個人的には一日目のアスナルでのステージ発表が一番盛り上がった気がするわ。

(常松) 三日目のクラス展示と有志ステージも、完成度が高くて本当に楽しかったな。

(鈴木) でも何だかんだ言っただけで準備が一番面白くて充実してた気がせん？

(爲・伊・常) それな！準備も含めて、本当に思い出に残る三高祭だったよ。

(爲石) 準備の中でもダンスが楽しかったな。なかなか覚えれなかったけど。

(伊藤) すっくと横見ながら踊ってた。(笑)各学年で言えば、一年生の合唱も凄かったよ。

(常松) 三年生のムービーとか二年生の展示も凝って満足感高かった。

(爲石) それに色長として参加した三高祭は去年、一昨日とはまた違って、ちょっと大変だったけど、達成感あったな。

(伊藤) 忙しかった分、今まで以上に楽しめたように感じるわ。

(常松) 高校最後の三高祭だったけど、めっちゃいい思い出になったね。

(鈴木) だよ。コロナの影響も大きかったけどできて良かったよ。

(伊藤) 本当にそう思うよ。

(爲石) 開催について、理解・ご協力して下さい皆様、本当にありがとうございました！



紫組色長  
爲石



黄組色長  
伊藤



青組色長  
常松



赤組色長  
鈴木

# 男子 ソフトボール部

藤原直也

僕達男子ソフトボール部は、6月に行われた県総体で優勝することが出来ました。

その結果を得るに至ったのは、キャプテンである僕だけでなく、チーム全体が主体的に発言したり、指示の声出しも行っていたことが大きいと思います。

また、先生方や保護者の方々からの支えもあり、一人一人が自分の課題と向き合っただけのびびと練習できる環境が整っていたことも大きな要因です。

このような支えの中でこのような経験が出来たことに感謝し、これからもその感謝と誇りを胸に精進していきたいです。



## 演劇部

駿馬里咲

演劇部は八月に東京で行われた全国総合文化祭に出場しました。私たちは夏休みの部活中に私たちの劇の主役である永井隆博士の記念館に部員全員で訪れました。館長さんのお話を聞いたり本を読んだりしたことで皆が緊張感を持ったとても良い本番になりました。結果は優良賞でしたがたくさんの方に私たちのお芝居を届けることができて本当に良かったです。この情勢の中支えてくださった方々のおかげで誰一人欠けることなく総文祭に挑めました。応援ありがとうございました。



## JRC部

長谷川智香

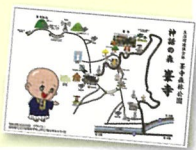
JRC部は八月に東京で行われた全国総合文化祭で研究発表をしてきました。(ポラントイア部門は競技ではなく順位はつきません。)研究テーマは『Original Style in 雲南〜広げる健康・繋げる命〜』で、第136号、137号で報告した内容です。活動のBeforeとAfterを数値データとして比較分析し、活動の成果をグラフ化したことで、『気づき・考え・実行する』を合言葉にしたポラントイアの素晴らしさを効果的に示せました。おかげで、ポラントイアに取り組む全国みんなの元気になった！という講評をもらいました。

また、全国の仲間とフィールドワークに取り組み、地域社会の抱える課題に、気づき、考え、実行する計画を立てました。日頃は単独校内ではできない大きな課題も、47都道府県それぞれから経験を持ち寄り、とても充実していました。応援ありがとうございました。



## お知らせ

『梅でつながる魅力発信・交流プロジェクト』として、峯寺森林公園(峯寺・峯寺遊山荘・峯寺弥山など)を拠点に、楽しい企画を昨年度下旬からスタートしました。その中のひとつ「梅ジャム」も大好評で、わずか30分で完売できました。次は「看板・地図おひろめ交流イベント」を予定しています。詳細は広報しますのでぜひご参加お待ちしております!



## 野球部

本池治洋

野球部はこれまで「甲子園で校歌を歌う」という目標を立て、日々練習を積み重ねてきました。新チームが開始しての秋季大会は二回戦敗退。春季大会では一回戦敗退。練習試合では勝っていても大会では本来の力を出すことができずに負けてしまうことがありました。大会で結果を出すという難しさに悩んでいました。改善策を何度もチームで話し合い、人間性を見直すようにしました。学校外でもゴミ拾いなどをし、地域の方からも応援されるいいチームにしようとしてきました。

迎えた夏の大会ではベスト4という結果で終わり目標には届きませんでした。春負けてからしてきたことは無駄にならないし、これからの野球部にも繋がっていくと思います。「甲子園で校歌を歌う」という目標は後輩に託したいと思います。



# 学校行事



文化祭



体育祭



遠足



## 写真展

(写真部撮影)

